

# 筑波大学特別講義

## ～ 大学と学問～

開設区分	総合科目 I (大学院共通科目としても開設)
開設学期・曜日時限	春 AB 水曜日 6 時限 (17:00~18:15)
科目責任者	宮村 新一 (生命環境系 准教授)
	吉田 武男 (人間系 教授)
	佐野 伸行 (数理工学系 教授)

### ◆ 筑波大学特別講義について 副学長(教育担当) 清水 諭 教養教育機構長

運動やスポーツにうまくなるコツは、まず最初にうまい人をよく観察し、まねることであるとされています。このことは、学問でも同じであり、まず最初は高い成果をおさめている方々から学問だけでなく、生き方や考え方(哲学)を学ぶことです。

本講義では、本学の学長をはじめとする経験豊かな講師陣が、大学・学問・そして人生について広いテーマで講義をおこないます。

受講生みなさんに、大学で学ぶべきことや自分の今後の生き方についてじっくりと考えてみる機会を提供するとともに、明確な目的意識をもって自律的に学習していくことができるように、大学生活と学問への道案内をすることを目的としています。

学長をはじめとする本学に関係する優れた研究者が、自らの学問と人生体験を語ることにより、日本および世界において次世代の指導者となりうる有能な若者を育成する機会ともしており、本講義では、総合大学としての本学の広く深い学問の特徴を活かし、幅広い学問分野を学ぶことができます。

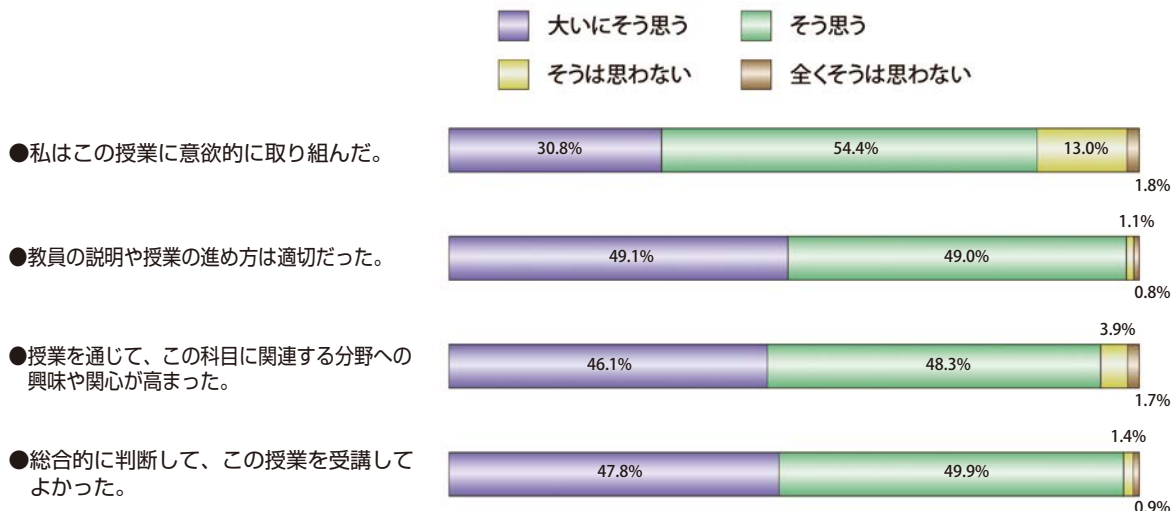


### 受講した学生からの反響

受講者アンケートからも分かる様に、講師陣の熱意あふれる講義は大半の受講生にしっかりと届いています。そしてその結果たくさんの受講生達が「新しい知識や考え方が習得できた」「満足できる講義だった」と評価しています。

これまでの講義では質疑の挙手が後を絶たず、時間の関係で終了した後もステージに学生が駆け寄り個々に質問する場面が見られるなど、大変好評でした。この特別講義の感動を、今度は是非あなた自身が体験してみてください！

### 2016年筑波大学特別講義受講者アンケート結果から (受講者数 約 630人)



## 講師陣紹介

第1回  
4/19



### 永田 恭介

筑波大学 学長

**プロフィール** アルバート・アインシュタイン医科大学博士研究員、スローンケタリング記念癌研究所研究員、国立遺伝学研究所助手、東京工業大学助教授、同教授を経て、2001年から筑波大学教授、2009年から学長補佐室長。2013年より学長就任。専門は、分子生物学、生化学、ウイルス学。1993年日本ウイルス学会杉浦奨励賞受賞。著書に、「ウイルスの生物学(学土社)」、「ウイルス実験プロトコル(メジカルビュー社)」等多数。

**授業概要** **大学と学問** 科学と技術の進歩は、人類社会に大きな発展をもたらした。しかし、一方ではエネルギー・資源に関する問題、産業・経済に関わる問題、食料、人口構成、格差社会の問題などを生んだ。いずれの問題についても地球規模での認識と解決が必要である。基礎科学から創業にまで繋がる研究に携わってきた経験と実感を交えて、これからの大学の役割と大学における学問について考える。

第2回  
4/26



### ギュルセル・イスマイルザーデ

駐日アゼルバイジャン共和国特命全権大使

**プロフィール** 1993年にアゼルバイジャン外務省に入省し、96年に大学院生として来日。96年10月から97年3月まで筑波大学留学生センター日本語予備教育コース日本語研修を受け、その後上智大学国際関係論専攻で日本外交の研究を始めた。2000年3月に国際関係論修士学位を取得。同年、博士後期課程に入学し、2004年に満期大学生として卒業。2005年に帰国し、外務省での勤務を継続。2005年9月から2009年末までに、駐日アゼルバイジャン大使館で仕事を始め、副大使まで昇進。2010-11年間外務大臣補佐官。2011年8月から駐日アゼルバイジャン共和国特命全権大使。

**授業概要** **独立国家25周年のアゼルバイジャンー達成した目標** アゼルバイジャンは1991年に独立国家になり、昨年は独立国家として25周年を祝いました。若い国であったアゼルバイジャンは如何に国家建設の方針を立てたか、そして国際社会の一部になってどんな海外政策を行ったか、講義で語ります。アゼルバイジャンの国家建設では、特に若者の役割についても講義します。

第3回  
5/1



### 落合 陽一

図書館情報メディア系助教 / Pixie Dust Technologies CEO

**プロフィール** メディアアーティスト、博士(学際情報学)。2015年東京大学博士課程修了、2015年より筑波大学図書館情報メディア系助教 デジタルネイチャー研究室主宰。専門はCGH、HCI、VR、視覚聴覚触覚ディスプレイ、デジタルアプリケーション。情報処理推進機構より天才プログラマー / スーパークリエイター認定。総務省より異能vationに選ばれた。著書に「魔法の世紀(Planets)」など。2015年米WTNよりWorld Technology Award、2016年Ars ElectronicaよりPrix Ars Electronica、EU (ヨーロッパ連合)よりSTARTS Prizeを受賞。2016年12月から2017年1月まで自身初となる大規模個展「Image and Matter: Cyber Arts towards Digital Nature」をマレーシア・クアラルンプールで開催した。

**授業概要** **ユビキタスからデジタルネイチャーへ: アート・エンターテインメント・デザイン** 我々はユビキタスコンピューティングの先「計算機自然(Digital Nature)」の到来を見据えています。計算機自然では、人と機械、物質世界(Material World)と実質世界(Virtual World)の間に、今までの工業化社会よりも多様な未来の形が起ころうと考えられます。本研究室は、そういった物質性と実質性の間で、計算機応用のもたらす様々な選択肢を想定し、それらを計算機科学的に実装することで、産業・学問・芸術に至る様々な問題解決に挑戦し、人・計算機・自然における新たな文化的価値の創成を目指しており、そのケーススタディや現在に至るメディア史などを紹介する。

第4回  
5/10



### 柳沢 正史

筑波大学 教授、  
筑波大学国際統合睡眠医学研究機構(WPI-IIS) 機構長

**プロフィール** 1985年筑波大学医学専門学群卒業、1988年筑波大学基礎医学系博士課程修了(薬理学)。筑波大学講師、京都大学講師を経て1991年渡米し、2014年までテキサス大学教授兼ハワードヒューズ医学研究所研究員。2010年より筑波大学教授を兼任し、内閣府最先端研究開発支援プログラム(FIRST)中心研究者として筑波大学に研究室を設立。2012年より文部科学省世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)に採択され、国際統合睡眠医学研究医学機構(IIS)の機構長として睡眠覚醒の謎に挑んでいる。筑波大学大学院生のときに心血管系の重要な制御因子「インドセリン」を世界に先駆けて同定、テキサスでは睡眠覚醒を制御する脳物質「オレキシン」を発見した。これらの発見は、現在臨床の現場で使われている新薬の開発に直接結びついた。

**授業概要** **睡眠・覚醒の謎に挑む** 「なぜ眠らなければならないのか?」「そもそも眠気とは何か?」といった誰もが抱く疑問は未だに解明されていない。日米両国で最先端の研究を行ってきた経験を踏まえ、現在筑波大学で行っている睡眠・覚醒の根本的メカニズムの解明に関する研究について紹介する。

第5回  
5/17



### 日比谷 潤子

国際基督教大学 学長・教授

**プロフィール** 慶應義塾大学国際センター助教授、ダートマス大学客員准教授を経て、2004年から国際基督教大学教授、2006年から教学改革本部長、2008年から学務副学長。2012年より学長就任。専門は、社会言語学。日本学術会議連携会員(言語・文学)。

**授業概要** **世界の人々とともに** 大学入学を機に、住み慣れた土地を離れた人も少なくないだろう。それまでの限られた世界から一歩外に出たみなさんを待っているのは、さまざまな出会いである。新たな学生生活では、異なる背景や価値観を持つ人々と協働する力、対話と交渉によって物事を進めていく力が求められる。この講義では、このような力を身に付けるにはどうしたらいいかを考える。

## 講師陣紹介

第6回  
5/24



### 熊倉 功夫

MIHO MUSEUM 館長

**プロフィール** 京大文学部人文科学研究科助手、筑波大学助教授、同教授を経て、国立民族学博物館第一研究部教授、同部長、民族文化研究部部長、同名誉教授。また林原美術館館長(2012年)、静岡文化芸術大学学長(2016)を歴任し、現在MIHO MUSEUM館長。専攻は、日本文化史・茶道史。2013年中日文化賞受賞。著書に、『日本料理の歴史』、『茶の湯といけばなの歴史 日本の生活文化』、『後水尾天皇』、『文化としてのマナー』、『現代語訳 南方録』、『日本人のこころの言葉 千利休』、熊倉功夫著作集 等多数。

**授業概要** **日本の食文化** 文化とは、人間が自然環境と歴史的環境の中で形成してきた生活技術と世界観の総体といえる。食生活はまさに文化の曲線で、日本には温暖なモンスーン気候と日本列島という風土に根ざし、異文化の接触の中で形成された日本文化の一つである。しかし、食文化が学問の対象となったのは比較的新しい。食文化を考える様々な視点を提示してみよう。

第7回  
5/31



### 逢坂 卓郎

筑波大学 特命教授

**プロフィール** 博士(芸術学) 1972年東京芸術大学大学院美術研究科修了。武蔵野美術大学助教授 同教授を経て2004年筑波大学芸術系教授。環境芸術学会名誉顧問。日本のライトアートの代表的な存在。宇宙線の信号がLEDの光に変換される“宇宙線シリーズ”、2000年の皆既月食時、棚田に18個の巨大な鏡が月光を捕らえる“ルナプロジェクト”は宇宙をテーマとした代表的な作品。2008～11年に国際宇宙ステーション内で芸術実験を実施。国内外の主な美術館で作品を発表。

**授業概要** **科学と芸術の融合“宇宙芸術 - 光・水・生命”** 「なぜ、人は宇宙を目指すのか」この問いに挑戦すべく、2008年から実施された宇宙ステーションJAXA JEM “KIBO” に於ける芸術実験について報告する。そして、無重力環境と地球外からの視点が新たな世界観を生むことを宇宙飛行士の体験やピラミッドなどの巨大な遺構の検証に基づいて考察する。また、航空機による学生無重力フライト実験についても紹介する。

第8回  
6/7



### 中鉢 良治

国立研究開発法人産業技術総合研究所 理事長

**プロフィール** 東北大学大学院工学研究科博士課程修了(工学博士)、1977年ソニー株式会社入社、メタルテープの開発等に従事。北行役員、執行役副社長等を経て、2005年取締役・代表執行役社長兼エレクトロニクスCEO、2009年取締役・代表執行役副会長。2013年独立行政法人産業技術総合研究所理事長、2015年から現職。総合科学技術会議有識者議員、東日本大震災復興構想会議議員等を歴任。

**授業概要** **読書の楽しみ** 読書は知識を広め深めるだけでなく、人生をより豊かなものに変えてくれます。私も読書好きで、特に会社の経営に携わっていて時間に追われ、ともすると自分を見失いそうになるときでも、少しの合間に読んだ本が心の安定剤になったものと思います。講義では、私と読書との関わり、趣味と仕事との関わり、職業はじめ選択に伴う決断と覚悟などの経験を紹介し、今後の長い人生を楽しく幸せに働き、暮らす術を考える参考にいただければと思います。

第9回  
6/14



### 山海 嘉之

筑波大学システム情報系教授・サイバニクス研究センター長

**プロフィール** 筑波大院修了(工博)。日本学術振興会特別研究員、筑波大学講師、助教授、米国Baylor医科大客員教授を経て現職。脳神経科学、ロボット工学、IT、システム統合技術、行動科学、心理学、倫理、法学、経営などを融合複合した新学術領域【サイバニクス：人・ロボット・情報系の融合複合】を創成。世界初のサイボーグ型ロボットHALを研究開発。サイバーダイン社CEO、内閣府ImPACTプログラムのPMとして、イノベーションによる未来開拓を推進。

**授業概要** **最先端人支援技術【サイバニクス】による未来開拓最前線** 「重介護ゼロ社会」[Society5.0]の実現に向けて、人とテクノロジーが創る共生社会のあり方、社会課題解決のための「革新的サイバニクスシステム」を中心に、世界初のロボット治療機器「医療用HAL」、医療・福祉・生活(職場を含む)分野におけるサイバニクス技術、これらと再生医療・薬を組み合わせた革新的医療技術に関して事例を交えて概説し、文系理系の垣根を超えた新領域開拓の重要性や次世代の経済のあり方について言及する。

第10回  
6/21



### 田嶋 幸三

公益財団法人日本サッカー協会 会長

**プロフィール** 1976年埼玉県浦和市立南高等学校全国高等学校サッカー選手権大会優勝。1979年筑波大学第28回全日本大学サッカー選手権優勝。日本サッカーリーグ古河電工、日本代表13試合出場。1983年から2年間ケルン・ドイツイツスポーツ大学在学。1987年筑波大学大学院修士課程体育研究科修了。1993年より日本サッカー協会強化委員会委員、技術委員会副委員長等を務め、U17日本代表監督として2001年世界選手権に出場。(公財)日本オリンピック委員会常務理事。一昨年より国際サッカー(FIFA)連盟理事を務め、昨年東アジアサッカー連盟(EAFF)会長に就任。

**授業概要** **世界のサッカーを変えるということ 常に世界を目指すこと** 常に、どんな時も世界を意識し、世界ナンバーワンを目指して日本サッカー協会は活動を続けている。その具体的な内容を紹介し、フレッシュマンである筑波大学の後輩の皆さんに、常に世界を目指すことの重要性を伝えたい。そして、それを実現するために何をしなければならぬかを一緒に考えたい。